

柏餅に使用されている葉の真実

1年3組 清家 碧斗 1年3組 大原 新也
1年3組 松本 俊輔 1年3組 三國龍之介
指導者 若山 勇太

1 課題設定の理由

2016年7月に本校で行われた出張講義で橋越清一氏は「柏餅に使用されている葉は地域ごとに異なる」と紹介された。柏餅というのは、端午の節句に食べる縁起のいいものとして知られているが、筆者らは葉について普段気にしたことがなかった。舘野ら(2012)によると西日本で使用されている柏餅の葉はサルトリイバラであり、カシワではないと記されている。宇和島で皆さんが食べている柏餅の葉は果たして何の葉なのだろうか。その真実に迫りたいと思い、本研究を始めた。

2 仮説

愛媛県内においても地域によって使用されている葉は違うのではないかと。

3 研究方法と柏餅の由来

(1) 研究方法

以下に示すスーパーや道の駅で柏餅（地域によっては「しばもち」）を購入し、その葉を回収して分類する。

スーパー：サンシャイン（宇和島市） しんばし（宇和島市）
道の駅；きさいや広場（宇和島市） やすらぎの里（宇和島市）
フレッシュ一本松（南宇和郡愛南町） 森の三角ぼうし（北宇和郡鬼北町）
なかやま特産品センター（伊予市中山町）

(2) カシワとサルトリイバラの違い

文献（亀田ら,2003;鈴木ら,2009）を参考に、カシワとサルトリイバラについて、その分布や生息環境、特徴などをまとめた（表1）。カシワは本県では松山市（旧中島町津和地島）にのみ自生する（得居ら,1996）。サルトリイバラは江戸時代から宇和島藩で自生が記録されており「菝葜（はつかつ）」という名で薬草として用いられていた（田原,2015）。

表1 カシワとサルトリイバラの違い

	カシワ	サルトリイバラ
分布	北海道～九州	北海道～沖縄
環境	山野のやせ地、海岸、庭	山野の林縁や林内
大きさ	15m	つる性
特徴	大きくて波状の葉である	鉤状のトゲと巻きひげでほかの植物に絡みつく

(3) 柏餅の由来（舘野ら,2012より引用）

柏餅が登場するのは「ちまき」より後で、江戸時代といわれている。カシワの葉は新芽が出てくるまで古い葉が落ちないという現象から「子供が産まれるまで親は死なない」「家が絶えない」という願いとあわせて「カシワ」の葉を摘要したと推察されている。

4 結果と考察

(1) 調査結果

各地の道の駅で購入した柏餅の葉は仮説とは異なり、すべてサルトリイバラ（写真1）であった。一方で、スーパーで購入した柏餅の葉にはカシワが使われているものがあっ

た。販売元の業社に問い合わせたところ、外国産（大部分は中国産）のカシワ（写真2）を使用しているとの回答を得た。



写真1：サルトリイバラ



写真2：外国産のカシワ

(2) 全国の柏餅に使用される葉の分布（図1）

西日本ではサルトリイバラしか使われていないが、東日本ではカシワが主だが、他にも多様な葉が使われている。亀田ら（2003）によると、ホオノキも昔から郷土料理に使用されており、その葉には殺菌作用があり、肉や魚も傷みにくく、餅にもカビが生えないという。なぜカシワの代わりに主にサルトリイバラが使われているのかについては明確な知見を得ることができなかった。

5 まとめと今後の課題

柏餅という名前だが、使用されている葉には、カシワ以外にもサルトリイバラやホオノキ、ニッケイ等さまざまであることが分かった。大きく分けると西日本ではサルトリイバラ、東日本ではカシワの葉が多く使用されている。なぜサルトリイバラが使われているのかは不明である。

今後は餅に使われる葉として必要な条件を考察していきたい。

謝辞

本研究を進めるにあたり、以下の業社に取材協力をいただいた。心から感謝申し上げる。

株式会社あわしま堂

株式会社富田屋

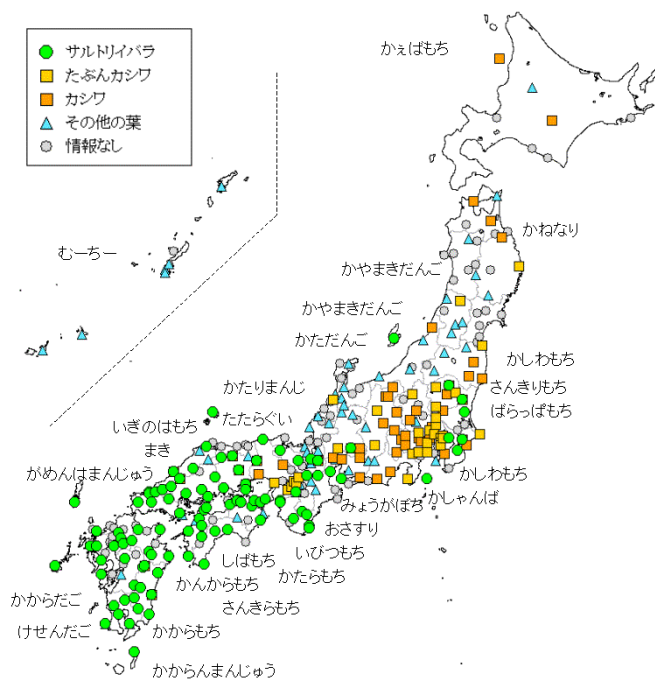


図1 かしわ餅に使用する葉と餅の名称の分布（広島植物ノートHPより引用）

参考文献

- ・ 亀田龍吉・多田多恵子（2003）『葉っぱ博物館』山と溪谷社 p.104.
- ・ 鈴木庸夫（2009）『樹木図鑑』日本文芸社 p171,277.
- ・ 舘野美鈴・大久保洋子（2012）「葉利用菓子の食文化研究」
- ・ 田原明章（2015）『宇藩土産考』町見郷土館 p.122-123.
- ・ 得居修・豊田信行・中村秋紀（1996）『えひめ森林公園の樹木ガイドブック』愛媛林業改良普及協会・国土緑化愛媛県推進委員会 p.59-60.
- ・ 広島植物ノート <http://forests.world.coocan.jp/flora/issue/issue-4.html>